

日蓮大聖人御書全集

じみようあまごぜんごへんじ

持妙尼御前御返事

新版
1970
〜
1971

じみようあまごぜんごへんじ

持妙尼御前御返事

けんじ

ねん

がつ

にち

さい

くぼのあま

建治 2 年 ('76)

11 月 2 日

55 歳

窪尼

ご 僧

膳 料

おく

た

そうら

お

御そうぜんりよう、送り給び候い了わんぬ。

こにゆうどうどの

隠

ひ

すでに故入道殿のかくるる日にておわしけるか。とこう

紛

そうら

打

忘

そうら

まぎれ候いけるほどに、うちわすれて候いけるなり。よ

忘

たま

も、それにはわすれ給わじ。

そ ぶ

もう

兵

かんおう

おんつか

ここく

もう

くに

蘇武と申せしつわものは、漢王の御使いに胡国と申す国

い

じゅうくねん

妻

夫

離

忘

に入つて十九年、めもおとこをはなれ、おとこもわするる

恋

ころも

あき

ことなし。あまりのこいしさに、おとこの衣を秋ごとに

きぬたのうえにうちけるが、おもいやとおりてゆきにけん、

おとこのみみにきこえたり。

陳氏

者

妻

夫

離

鏡

ちんしといいしものは、めおとこはなれけるに、かがみを

割

取

忘

とき

鳥

飛

さ

わりて、ひとつずつとりにけり。わするる時は、とりとび去

りけり。

相思

者

夫

恋

墓

そうしといいしものは、おとこをこいて、はかにいたり

き

そうしじゆ

もう

き

だいたう

渡

て木となりぬ。相思樹と申すはこの木なり。大唐へわたる

志賀

みようじん

もう

かみ

夫

唐

行

に、しかの明神と申す神おわす。おとこのもろこしへゆき

恋

かみ

島

女

似

しをこいて神となれり。しまのすがた、おうなににたり。

松浦佐用姫

まつらさよひめという、これなり。

古

今

至

親子

別

しゅじゅう

いにしえよりいまにいたるまで、おやこのわかれ、主従の

辛

夫

女

わかれ、いずれかつらからざる。されども、おとこおんなの

別

尊

かこおんのん

妻

わかれほど、たつとげなかりけるはなし。過去遠々よりめの

み

夫

しやばさいご

善

知

識

身となりしが、このおとこ、娑婆最後のぜんちしきなりけり。

散

花落

果

咲

結

故ひと

かえ

ちりしはなおちしこのみはさきむすぶいかにこ人の返ら

ざるらん

去年

憂

今

年

辛

つきひ

思

晴

こぞもうくことしもつらき月日かなおもいはいつもはれ

ぬものゆえ

ほけきよう だいもく

唱

法華經の題目をとえまいらせて、まいらせ候。

進

そうろう

じゅういちがつふつか

十一月一日

にちれん

日蓮

かおう

花押

じみようあまごぜんごへんじ

持妙尼御前御返事